

授業科目	整形外科学（演習・実習）（リハビリテーション専門医）（臨床専門医コース）		
取得する専門医の名称	日本整形外科学会専門医、日本リハビリテーション医学会リハビリテーション専門医		
区分・単位	講義・演習 2単位 演習・実習 4単位	関連分野等	整形外科、脳神経外科、神経内科、小児神経科、耳鼻科、呼吸器内科・外科、循環器内科、心臓血管外科など
年次・期別	1年次、2年次	曜日・時限	カンファ：金曜 AM 7:50-8:20 筋電図検査：火曜、木曜午後 新患診察：月、水、金午前
教室	リハビリテーション部	担当者電話番号	086-235-7751（千田益生）
担当教員	【病院】准教授：千田益生（医員：堅山佳美）		
一般目標	リハビリテーション医学について広い知識と技術を習得し、リハビリテーション専門医として必要な能力を身につける		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーション医学に関する基礎的知識、評価法、治療法、社会制度について理解する。 2. 日本リハビリテーション医学会専門医制度卒業研修カリキュラムに基づき、研修内容を十分理解し、実際に行なうことができる。 3. リハビリテーションにおけるチーム医療を理解し、リーダーとしてコメディカルを指導する 4. 日本リハビリテーション医学会学術集会において発表2回、リハビリテーション医学に関する論文1編を少なくとも完成させる。 		
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーション基礎医学（千田） 機能解剖・生理学：上肢・下肢・体幹の機能解剖、嚥下、呼吸、循環、排尿排便の生理 2. 臨床運動学（千田） 運動制御に関する知識、様々な反射の意義・見方、正常児の発達、姿勢制御、正常歩行と異常歩行 3. リハビリテーション診断学（千田） 電気診断学：筋電図検査による診断の仕方、神経・筋の病理診断、画像診断 4. リハビリテーションにおける評価（千田） 運動障害：筋力低下、筋萎縮、関節可動域、運動失調、痙性・固縮の評価 疼痛の評価、呼吸・循環の評価、発育の評価、言語能力の評価、高次脳機能の評価、摂食・嚥下の評価、排泄機能の評価、日常生活動作（ADL）の評価、QOLの評価 5. リハビリテーション治療学（千田） 運動療法：筋力強化訓練、関節可動域訓練、巧緻性訓練、失調に対する訓練、運動学習（粗大運動の獲得）、各種治療体操、禁忌事項 物理療法：温熱療法、水治療、電気治療、物理療法の禁忌など 作業療法：ADL向上訓練、高次脳機能障害に対するアプローチ、興味ある作業を通じての機能向上 義肢装具療法：義肢装具に対する知識、義肢装具の適応・効果 6. 各論（千田） 脳血管障害、脳性麻痺、脊髄損傷、神経筋疾患、関節リウマチ、骨関節疾患、切断、循環器疾患、呼吸器疾患など 7. リハビリテーション社会医学（千田） 		
テキスト・参考書等	現代リハビリテーション医学（金原出版）、最新リハビリテーション医学（医歯薬出版）、義肢装具のチェックポイント（医学書院）、神経伝導検査と筋電図を学ぶ人のために（医学書院）、リハビリテーション基礎医学（医学書院）		
成績評価基準 成績評価方法	知識と実技で到達度を判定する		
研究活動との 関連	習得した知識・技術を、整形外科学・リハビリテーション医学の臨床研究に応用する。		

基礎実習	筋電図検査、徒手筋力検査、関節可動域測定、深部腱反射、麻痺高位判定、ADL・QOL 評価、義肢装具・車いすの処方学習、運動療法・作業療法の処方学習、リスク管理など
臨床実習	新患診察、運動療法・作業療法・言語療法の処方、各療法士への指導、義肢装具処方、患者への筋電図検査・診断、嚥下・摂食訓練、呼吸・循環の診断
症例検討会	問題患者に関して、チーム医療のリーダーとして、症例検討会を主宰し、解決策を話し合う
講義日程	<p>まず基礎知識の習得として、解剖学をはじめ、ADL・QOL といったリハ的評価法を理解し、患者を診断する技術を身につけます。運動療法、物理療法、作業療法、言語療法、義肢装具療法などの治療法を理解し、各療法士に対し処方ができるようになる必要があります。実際に、用いる器具を触り、どのように用いるか、チェック項目はなにか、適応と禁忌はなにかなど、療法士を指導し、一人前のリハ医として患者を診察できることを目標とします。実際に、患者を初診から診察し、評価、処方を行ってもらい、リハ専門医の指導を受けます。リハ専門医になるための条件として、日本リハビリテーション医学会学術集会で主演者としての発表や、論文を書く必要があります。研究に関しても、積極的に指導し必要な資格を取っていきます。リハビリテーション医療はチーム医療であることを十分理解し、知識・技術を習得しリハ専門医になっていただくことを目標とします。</p>
本年度参加が望ましい学会等	日本リハビリテーション医学会、日本整形外科学会、日本運動器リハビリテーション医学会、中国四国リハビリテーション研究会など